

鹿病防第7号
平成23年5月2日

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成23年度病害虫発生予察特殊報第1号について（送付）

このことについて、下記のとおり発表したので送付します。
なお、病害虫防除所ホームページ（www.jppn.ne.jp/kagoshima）にも掲載しています。

病害虫発生予察 特殊報第1号

平成23年5月2日

鹿児島県病害虫防除所

- 1 病害虫名 トマト茎えそ病（仮称）
キク茎えそ病ウイルス *Chrysanthemum stem necrosis virus* (CSNV)
- 2 作物名 トマト（促成作型，品種：CF桃太郎）

3 発生確認および発生状況

平成23年3月下旬に鹿児島市で、葉や茎に退緑症状や褐色のえそ症状を呈する病害が発生した。農業開発総合センター病理昆虫研究室において、ELISA及びRT-PCR法により検定した結果、*Chrysanthemum stem necrosis virus* (CSNV) によるトマト茎えそ病と確認された。

4 形態及び生態の特徴

- (1) 分布：国内では平成20年に群馬県で発見された後、21年には千葉県でも発生が報告されている。
- (2) 病徴：本ウイルスによるトマトでの症状は、葉では退緑症状や褐色のえそ斑を生じ（写真1）、葉の先端・周縁部が褐変枯死することもある（写真2）。茎ではえそ条斑（写真3）、生長点付近ではえそ、褐変・萎凋により葉が垂れ下がる症状が認められる（写真4）。果実では着色不良・えそ・変形が認められる。本病の症状はトマト黄化えそウイルス（TSWV）と類似している。また、一見すると疫病とも類似した症状を呈するが、疫病の場合は病斑部に白いカビを生じることから本病と区別できる。
- (3) 伝搬：本ウイルスはTSWVやIYSV（アイリスイエロースポットウイルス）と同じTospovirus 属のウイルスで、主にミカンキイロアザミウマによって媒介される。本虫は幼虫が罹病植物を吸汁することでウイルスを獲得し、永続的に伝搬する。

種子伝染や土壌伝染はしないと考えられている。

(4) 感染植物：トマト，キク，ピーマン

5 防除対策

アザミウマ類の媒介による他のウイルス病と同様に，以下の対策を実施する。

- (1) 施設内外の除草を徹底する。
- (2) 育苗期の感染は被害が大きくなるおそれがあるため，育苗床での防除を徹底する。また購入苗の場合，育苗段階で感染した苗を本圃に持ち込む場合もあるので注意を要する。
- (3) 施設の開口部には目合い1mm未満の防虫網を張る。
- (4) 発病株は速やかに除去・処分（埋設，焼却など）するとともに，媒介虫のミカンキイロアザミウマの薬剤防除を行い，施設内での二次感染を防止する。
- (5) 栽培終了後は施設内の蒸込み防除を行い，ミカンキイロアザミウマの飛散を防止する。
- (6) キク栽培ほ場ではミカンキイロアザミウマが多発することがあるので，キク栽培ほ場の周辺では本病の発生に注意する。

< トマト茎えそ病の病徴 >



【写真1】葉での症状（えそ斑点）



【写真3】茎での症状（えそ条斑）



【写真2】葉での症状（先の枯込）



【写真4】成長点付近の症状